

所属・資格 心理学科・教授

申請者氏名 岡田 和久

研究課題		大学生が抱く臨床心理士のイメージとニーズの質的研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	臨床心理士の実践活動は社会的に広く認知されてきている一方、利用者側による臨床心理士への不満が指摘されることが少なくない。その要因の一つとして、臨床心理士の実状と利用者側が抱く臨床心理士のイメージとニーズとのズレが考えられるが、データに基づく報告は少ない。そこで、本研究では大学生を対象にアンケート調査を実施した過去の自身の探索的研究（岡田，2016）をもとに、さらに分析・精査を行い、先行研究や文献等による考察を重ねたうえで、論文化するを目的とする。
	研究の結果	大学生を対象に実施した自由記述式のアンケート調査の質的データに対して、27個のコーディングルールに基づく計量テキスト分析を行った。その結果、臨床心理士のイメージは6クラスターに、臨床心理士へのニーズは5クラスターに分類された。
	研究の考察・反省	本研究の結果、臨床心理士のイメージについてはほぼ実状に即していた一方、「問題解決を目指したアドバイスの提案」「より親しい関わり」、そして「わかりやすい言葉の使用」といった臨床心理士へのニーズについては、従来の臨床スタイルとは一部異なるスキルが求められていることが明らかとなった。特に、臨床心理士に傾聴してもらえていることは同時に提案も求められているという強いニーズが明らかになったことは意義深いといえる。これは、臨床心理士は受動的にも能動的にもバランスよく対応していく必要があるといった先行研究（例えば、岡田・赤嶺，2015；山本，1995）を支持するだけでなく、公認心理師法第2条の「…相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う」にも合致するものと思われる。それゆえ、臨床心理士はそれらのスキルを修得しつつ対応していくことが有用と考えられた。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 なし。	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 岡田和久（印刷中）. 大学生が抱く臨床心理士のイメージとニーズの質的研究 日本大学文理学部心理臨床センター紀要，17.	